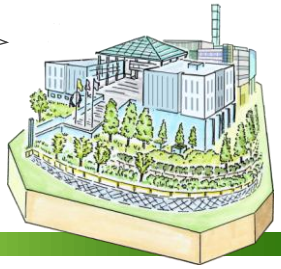
2025(R7)年 11 月　No329　(年４回季刊)

館内工事中です
(施設利用はできます)



# しみんけんきゅうニュース

発行:(公財)千里リサイクルプラザ　市民研究所　〒565-0826 大阪府吹田市千里万博公園4－3
TEL 06-6877-5300　FAX 06-6876-0530　http://www.senri-recycleplaza.or.jp/

## 第3回くるくるキッズ環境スクール
R7. 9. 21. 千里南公園

【目次】
P2　TOPICS
P3　各チーム活動報告
P4-5　特集　吹田ごみゼロ PT
P6　主担研究員コラム
P7　市民研究所通信
P8　11･12･1 月行事予定

キッズスクールでは
池の観察・森の観察
・部屋での講義を
行いました。

今年 府からおおさか環境賞・
国より地域環境保全功労者表彰を受賞

8月にニュース33年間 初の臨時特別号発行！！！
今後ともよろしくお願いいたします。

TOPICS

**第２回くるくるサロン**

**「バナナで読み解く SDGs　世界とつながる私たちの選択」**

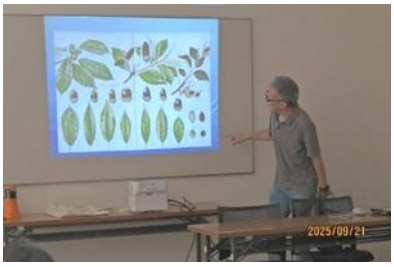
８月 10 日(日)、つながりラボにて。お話は、三輪信哉市民研究所長。参加 22 名。まず、スーパー店頭のバナナの画像が示され、「あなたならどのバナナを買う？」の問いかけから。値段か、見栄えか、GABA 含有など機能性か、バイオマス認証取得品か等々。フィリピンの生産農家の動画を視聴。生産者は、貧困、不就学、農薬空中散布による健康被害と環境汚染の負の連鎖を断ち切ることができない。日本の消費者は、安くて見栄えのよいバナナを求めるが、生産者の境遇や店頭に商品が並ぶまでの規格外商品の大量廃棄のことは知らない。「バナナの SDGs」をきっかけにグローバルな視点で考えよう。私たち消費者は、日々の買い物の時にも生産～流通～消費までの繋がりを意識し、人・社会・環境への配慮が欠かせないのだ。店舗の価格競争に乗らず、エシカルな消費行動に切り替えることが必要だと思う。後半では SDGs 全般のお話があった。

（市民研究員　松浦真理子）

**くるくるキッズ環境スクール ～自然観察会～**

プラザが主催する環境スクールにはキッズ版もあり、第３回目は 9/21 に南千里駅北の「千里南公園」にて開催した。進行は池の観察活動を行っている「身近な環境を調べようプロジェクトチーム」が行った。始めに牛ヶ首池の水を汲み、①様子②水温③透視度④pH⑤COD(化学的酸素要求量)を調べ記入(COD は試薬の色にて数値を特定)。次に公園を回り樹木観察を行い、その後場所を移動し、部屋にて植生に関して講義を行った。講義は順序よく進み、後の質疑応答にも質問が相次いだ。キッズ環境スクールの講座は昨年も行った(前回は春日大池)。昔とは違い図書館に通わなくとも、何でも調べることが出来る。しかしきっかけとしては実際の木・池の体験を行うことが、深化につながるのではないかと思いたい。

(市民研究員　大垣)



# プロジェクトチーム（PT）・アクションチーム（AT）活動報告

**市民とお店をエコでつなぐ PT**

定例会で行っている研究会では、三輪所長から生成 AI とは？を分かりやすく教えていただきました。ChatGPT の正しい使い方や注意点など、今後の研究活動にも活かせる実践的な内容でした。

**吹田ごみゼロシステム研究 PT**

ブログ「クリーンエネルギーの時代が夜明けを迎えている」「家電と太陽光パネルのリサイクルの現場を見学！」「Earth Overshoot Day（アースオーバーシュートディ）って、なんのこと？」「Move The Date (アースオーバーシュートディの日付を遅らせよう！)」について、９月と１０月に各２本ずつブログをアップしました。

他には、プラスチック問題について他チームと意見交流をするために話したいこと・やりたいことを各自が考えておくことになりました。次回１０月定例会で意見を集約して他チームとの意見交流を目指していきます。

**身近な環境を調べよう PT**

くるくるキッズ環境スクールの講座として、南千里にある牛ヶ首池をスクール生の子どもたちと調査しました。身近な池にもさまざまな生き物・植物がいることを知ってもらえました。また、みんなで外来種について勉強しました。インスタグラム→

**SDGs 啓発 PT**

地域や学校での活動に、丁寧かつ楽しく取り組んでいます。イベントやクラブ支援でも、SDGs 啓発 PT の熱意と工夫が多くの人に伝わっていると感じましたので今後の活動に活かしていきたいです。

**手作りおもちゃと環境 AT**

今年で３年目の WorldCleanupDay にチームで参加しました。昨年よりもごみが多かったです…。

１１月１日、ロハスフェスタでワークショップを開催します。ぜひ遊びに来てください(^^)/

**紙すき体験と環境 AT**

暑い夏を乗り越えて、公民館の出前講座も有意義に活動することが出来ました。メンバーが少ない中で本当にお疲れさまでした。パワーポイントを使っての説明も完璧でした！

**マイ食器啓発 AT**

マイ容器を利用してみた報告など定例会で話し合いました。イベントなどで啓発活動中です。

# 「マイクロプラスチック」で今考えるべきこと

吹田ごみゼロシステム研究 PT 市民研究員　上山幸子

プラスチックは発明されて以来、様々な製品が生まれ、暮らしの中に当然のように溶けこんでいます。便利、丈夫、安価である為、不可欠な素材となりました。

それが私たちを脅かす存在になるとは、発明者たちは思いもしなかったのでしょうか？或いは、危険性を感じつつも利便性、経済効果を優先し、突き進んでしまったのでしょうか？

**“ごみゼロ” “環境への負荷の削減”** を学ぶ中で、この素材の未来を考える必要があると考えました。

そこで、自然に還らない素材の特性から、廃棄、劣化の過程で発生する「マイクロプラスチック」について触れてみたいと思います。

① マイクロプラスチック

プラスチックは、使用の中で、元来使い捨てになる物が多々あります。使用後、廃棄する物も多く、不適切な廃棄、放置が課題です。

放置されたプラスチックごみは、紫外線にさらされ、様々な漂着を繰り返す中、酸素や水に触れ劣化を重ねます。波にもまれ、砂と擦れる等で細分化され、海岸に辿り着きます。

その中で 5 ミリを下回るものが「マイクロプラスチック」と称されていますが、「マイクロプラスチック」は分解されない為、残存します。それが、自然への影響、海洋生物の誤食が引き金となり、それを食する人への影響が出ているのが現状です。

1972 年に米国東海岸で発見されて以来、2000 年以降研究は増加しています。

「マイクロプラスチック」は生物に誤食され、食欲減退・体調の低下・消化管の損傷をもたらします。食物連鎖に組みこまれ「生物濃縮」と称されます。しかし、生物の誤食から人が摂取し、健康被害が出ているという因果関係は、未だ特定できていない状況です。

プラスチック自体には毒性はありません。問題は、海洋では残留性有機汚染物質が付着している可能性の高さです。これを海洋生物、人が体内に取り込む危険性が示唆されています。

海辺に漂着するプラスチックごみ

② 人体への影響

先に、不確定ではあると述べましたが、更に人体への影響として、環境ホルモンの中でビスフェノール A のばく露、PCOS（多嚢胞性

卵巣症候群）から女性の不妊、男性の生殖器の低下の可能性も取りざたされています。事実の解明は時間を要します。

③ 我々にできること

ごみの分別

世界では年間 3000 万トン、日本では 14 万トンのプラスチックごみが適切な処理をされずに廃棄されているといいます。処理の仕方ではなく、それに漏れてしまうものをいかに減らし、最終的になくすのかが課題です。プラスチックごみは、環境に漏れるものという前提で考える必要があるのです。

使用の抑制

今では当然とされてきている、レジ袋の有料化、ストロー不使用等の動きは歓迎すべき点です。しかし、廃棄が前提です。

有料化に踏み切ったものが、どの程度削減に結びついたのでしょうか？

すぐにゼロにはできない、削減目標もない、となると、不安はつきません。

取り組みとして

・化粧品、パーソナル製品は無香料を使用
・家のフローリング材、壁紙はポリ塩化ビニルではなく天然素材を使用
・子供のおもちゃ、食器はプラスチックではなく木製に
・新車より中古車、新築マンションより中古を選ぶ
・室内汚染防止にこまめな掃除、換気
・プラスチック容器での飲食は避ける
・プラスチック容器での食品の電子レンジ加熱はやめる
・缶詰、レトルト食品は避ける
・お茶などのティーバックは使用しない
・ペットボトルの使用は減らす
・レシート等感熱紙の印字部分は触れない

等

例えば、木製のおもちゃを使用してみる。

私たちの暮らしを、社会を支え、発展に貢献してくれたプラスチックのデメリットが拡大しています。使用削減、プラスチックの大量消費を止めなければ！と行動していきたいです。

自然由来の物質での代替素材の開発は一方でなされています。人の叡智に期待し、社会、我々それぞれの関心を持ち学ぶことで、変化をもたらすと信じています。

参考文献

磯辺篤彦著「海洋プラスチック　ごみ問題の真実」化学同人　2020 年

水野玲子著「プラスチックの逆襲」高文研　2025 年

# 鴨のやってくる吹田の自然

## ～「吹田かもフェスタ」２年目へ～

主担研究員　黒田　勇

**「ハインリヒの鴨」**

今年の２月に吹田で開催された「吹田かもフェスタ」はどれだけの人に浸透したのだろう。2 月 14 日から３週間、50 店ほどの飲食店が参加し、「鴨料理」や「鴨パン」「カモミール」そして鴨や野鳥の観察会などで楽しんだ。

1880(明治 13)年２月７日、吹田市の釈迦ヶ池で発生した『プロイセン皇孫吹田遊猟事件』。通説では、「禁猟の釈迦ヶ池で、神戸に滞在していたドイツ皇帝ヴィルヘルム 1 世の孫、ハインリヒがお供を連れて鴨猟をした。七尾村の井田元吉がそれを発見、皇子を殴打し、外交問題に発展した」とされる。

日本側の記録では、元吉は皇孫一行の何人かから暴行を受けた。ところが、ドイツ側から「不敬」であるとの抗議があり、日本政府はドイツとの「不平等条約」には勝てず、14 日に吉志部神社と大阪府庁で「謝罪式」を行った。

この事件から 145 年が経ち、事件を知る人も少なくなったが、昨年９月、くるくるプラザも共催して、この事件と吹田の歴史と自然を考えるシンポジウム「ハインリヒが撃ったかも」を開催した。吹田市民がこの歴史を思い起こし、また今も残る吹田の豊かな自然の保護に努めてもらえればという意図だった。

市民研究所の研究員、岡本陸奥男さんも登壇し、吹田の池や河川の状況を報告した。多くの市民が参加し、大変盛り上がった。なんと元吉さんの子孫、高山智嘉さんも駆けつけてくれた。

**「かもフェスタ」の試行的開催**

実は、吹田は、かつて地元で獲れる「鴨鍋」や「すっぽん鍋」で有名なグルメの街だった。居酒屋やバーで話を聞くと、そんな吹田の賑わいをこの「ハインリヒの鴨」で復活できたらという声も聞いた。

それに勇気を得て、昨年暮れに動き出したところ、吹田市商工会議所や市会議員の方、ロータリークラブの方からも賛同をいただいた。

年明け早々に市内のお店を回りイベントの説明をすると 30 店舗近くのお店が参加くれることとなった。旭商店街で『カナール』という名のパン屋さんが目に入った。フランス語で「鴨」を意味する。ご主人に尋ねると「私の名前が加茂なんですよ」と。早速、お誘いすると「かもパン」をつくって参加してくれた。

２月 12 日の開会式には、後藤圭二吹田市長や柴田仁吹田商工会議所会頭もメッセージを寄せていただいた。2 月 14 日に始まり、期間中に 48 店舗の参加となった。それぞれの店が工夫を凝らし、イベントや鴨料理を提供した。

最終日には千里山のパン屋「エメ・ラ・ヴィ」の主催で「ハインリヒウォーク」を開催。お店から、釈迦が池、吉志部神社、市場池まで歩き、吹田野鳥の会野平軍二会長の説明を受けた。

カナール謹製「かもパン」

**第二回「かもフェス」来年２月に**

今年の成功を踏まえ、もう一度やってみようと準備中。前回の成功の要因としてお店への呼びかけがよかったとのこと。

「何の負担もありませんし、逆に何の利益もありません。」「吹田の歴史や自然の話で遊んでください。」ということで、気持ちよく皆さん、気楽に協力していただいた。

次回も同様の精神で進めたい。グルメの楽しみだけでなく、吹田の環境にかかわる企画も増やす予定だ。吉志部神社での「謝罪式」の再現も含めて準備している。　（了）

# 市民研究所通信

**「いのち輝く未来」を、日常から考える**
**～大阪・関西万博を訪れて～**

先日、私は大阪・関西万博を訪れる機会を得ました。会場全体は、最新の技術や未来的な建築、さまざまな国や企業の個性あふれる展示で活気に満ち、多くの来場者が熱心に体験し、学び、楽しんでいました。そうした華やかさの中で、私の心に最も強く残ったのは、未来をより良いものにしていくための“小さな気づき”や、今の暮らしを見つめ直す“静かな問いかけ”でした。

万博のテーマである「いのち輝く未来社会」という言葉は、一見すると壮大で抽象的に思えるかもしれません。しかし、実際に会場を巡るうちに、それが私たち一人ひとりの「生き方」や「選択」に深く結びついていることを実感しました。科学技術の発展はもちろん、多様な文化や価値観が交差し、共に創り上げていくことで、人々がそれぞれの可能性を最大限に発揮できる社会。そんな未来像が、体験や展示の中にやさしく、しかし力強く表現されていました。

中でも特に印象に残ったのは、「環境」と「いのち」の深い結びつきを伝える体験や展示です。たとえば、自分の食生活や移動手段、電気の使い方など、日常のささいな選択が、どれだけ$CO_2$を排出しているのかを“可視化”する体験では、普段の暮らしがいかに地球環境に影響を与えているかを改めて“自分ごと”として認識することができました。これまでも知識として知っていたことが、実際に目に見える形で提示されることで強く心に響きました。

また、海洋ごみや気候変動、生物多様性の喪失といった今まさに私たちが直面している地球規模の課題についても、美しさと問題意識を両立させた展示が多く見られました。漂着ごみを使ったアート作品のように、一見すると芸術的で魅力的なのに背景を知ると胸が痛む・・・そんな展示は私たちに「これは誰か他人の問題ではなく、私の問題なのだ」と、作品の美しさの中に、強いメッセージとして訴えかけてきました。こうした体験を通して私が強く感じたのは、「環境を守ることは、いのちを守ることそのもの」だということです。そしてその「いのち」とは、人間だけに限らず、動物や植物、海や空、あらゆる自然を含んだ、大きなつながりの中で存在しているものなのだということに、改めて気づかされました。

私たちが関わっている「くるくるプラザ」も、こうした気づきや学びを地域の皆さんに伝えていく大切な役割を担っています。日常の中で環境について「しっている」だけではなくそれを「している」へとつなげていくための体験や仕掛けを、これからもっと積極的に取り入れていきたいと感じました。未来は決して定まったものではなく、私たち一人ひとりの選択によって「書き換えることができるもの」なのです。

未来を守るためのヒントは、遠いどこかにあるのではなく、私たちの毎日の暮らしの中にきっとあります。何気ない一歩でも、気づきや学びを行動に変えていくことが、やがて大きな変化につながる。私はその可能性を信じています。

《事務局　山川》

# くるくるプラザ　市民研究所　予定表

**休館日**　　11月
3日・4日・10日・17日・23日　24日

| | | |
|---|---|---|
| 10/31～11/2 | 金~日 | ロハスフェスタ出展(ワークショップ) |
| 11月1日 | 土 | 市民研究所代表者会議 |
| 11月9日 | 日 | くるくるサロン(ひのでやエコライフ研究所の鈴木様) |
| 11月15日 | 土 | くるくるキッズ環境スクールバスツアー |
| 11月16日 | 日 | 自転車抽選日・おもちゃ病院 |
| ～11月30日 | | 食品ロス削減月間 |

**休館日**　　12月
1日・8日・15日・22日
年末12月29日～31日休館

| | | |
|---|---|---|
| 12月6日 | 土 | 市民研究所代表者会議・研究実践発表会 |
| 12月14日 | 日 | くるくるクリスマス・おもちゃ病院 |
| 12月16日 | 火 | 自転車抽選日 |
| 12月20日 | 土 | くるくるキッズ環境スクール&くるくる環境スクール閉校式 |
| 12月26日 | 金 | 研究運営委員会 |

**休館日**　　1月
年始1日～3日休館
5日・12日・13日・19日・26日

| | | |
|---|---|---|
| 1月10日 | 土 | 市民研究所代表者会議・つながり広場 |
| 1月16日 | 金 | 自転車抽選日 |
| 1月18日 | 日 | おもちゃ病院 |
| 1月22日 | 木 | 市民研究所チームヒアリング |

惜別

本年（2025年）7月15日に末石冨太郎先生がご逝去されました。享年95歳（満94歳）でした。先生は京都大学・大阪大学・京都精華大学・滋賀県立大学の教授を担われましたが、市民研究所（1992年の設立当時は（財）千里リサイクルプラザ研究所）を構想し2001年まで9年間にわたって自ら初代所長を務められ、研究所の礎を築かれました。ご指導を受けた市民研究員は数知れません。

先生の御恩に感謝申し上げ、ご冥福をお祈りいたします。

研究所所長　三輪信哉